

研究・調査報告書

報告書番号	担当
238	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Relationship between traffic fatalities and drunk driving in Japan. 日本における交通事故死と飲酒運転との関連	
執筆者	
Fujita Y, Shibata A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Traffic Inj Prev. 2006 Dec;7(4):325-7.	
キーワード	
アルコール、速度、シートベルト、自動車事故、日本	
要 旨	
<p>目的： 日本においてアルコール摂取と自動車事故による死亡との関連を明らかにすること。</p> <p>方法： 福岡県警の記録により、1987～1996年に発生した交通事故について調査した。アルコール摂取とその他の要因との関連を検討し、更に、アルコール摂取の影響の評価のため、多重ロジスティック解析を行った。</p> <p>結果： 10年間に58,421名の男性ドライバーが交通事故に遭い、271名が事故死していた。アルコール摂取は速度、シートベルト着用、時間帯、道路の状態（直線かカーブか）と有意に関連していた。多重ロジスティック解析を行うに際しては、速度とシートベルト着用は飲酒と強く関連していると考えられたため、モデルから除外し、年齢・暦年以外には時間帯と道路の状態（直線かカーブか）のみを調整したところ、運転前の飲酒による交通事故死のオッズ比は4.08（95%信頼区間：3.08-5.40）であり、75%の交通事故死は飲酒しなければ防げたものと考えられた。</p> <p>結論： 運転前の飲酒は交通事故死の危険度を4.08倍高める重要な危険因子と考えられた。</p>	